

友和

NO. 572

発行日 令和 6 年 12 月 1 日

発行 社会福祉法人 友和の里
〒738-0203

広島県廿日市市友田 218-38

TEL0829-74-2157 FAX0829-74-2154

HP : <http://yuuwanosato.com/>

発行者 常務理事 下川真稔



11/10(日)に令和 6 年度友和の里まつりが開催されました。当日は良いお天気にも恵まれ、普段よりお世話になっている地域の方々や事業所など 7 団体の方に美味しい軽食ブースや手作り作品、遊休品を出店頂きました。また、ステージで会場を盛り上げて下さった 6 団体の皆様、快く出演を受けて下さり、本当にありがとうございました。

お祭りの翌日、通所部の利用者さんが「楽しかったね～!歌!」と話しかけて下さいました。利用者の皆さんは毎日コツコツと練習をされていたので、それも含めて楽しい思い出になったのかなと思います。ご来賓の皆様には暖かいご祝辞を頂きまして誠に有難うございました。保護者の皆様、職員の皆さん、ボランティアの皆様すべての方に感謝致します。 (友和の里まつり実行委員長 川久保 貴子)

司会者コメント

この度、初めて司会を務めさせていただきますました、グループ・ホーム・フレンドホームゆうわの山田です。普段から活舌に自信がなく、マイクを通してきちんと言葉を届けることができないのか不安でしたが、沢山の人から「頑張つて！」「緊張は最初だけよ」と励ましやアドバイスを頂き気持ちが楽になり「自分なりに頑張ってみよう」と前向きな気持ちになりました。

祭りが始まると緊張もあり司会進行に全集中してしまい、周囲への配慮が疎かであったと思いますが、沢山の職員さんにフォローして頂き、何とか無事に大役を務めることができました。

利用者・職員の皆様に「司会良かったよ！」「司会の経験があったの？」と声をかけていただき、前向きに頑張つて良かったなとつくづく実感しました。今後も、未知の経験が沢山待つてると思いますが、自分なりに一歩を踏み出し可能性を広げていきたいと思えます。また、この度皆様に助けて頂いた御恩を少しでもお返しできるように励みたいと思います。

(生活支援員 山田 憲志)



フィナーレは恒例の餅まき



通所部ステージ 「虹」
楽器を使いながら歌をうたいました！

通所部ステージ発表

まつり本番を楽しみにしながら練習をたくさんしてきました。当日は緊張して大きな声が出なかった人もいましたが、会場のみなさんと一体となって楽しく歌うことができました。

(生活支援員 永見 貴一)

入所部ステージ発表

友和の里まつりでみなさんに楽しんで頂く為に、利用者のみなさんで「ズンドコ節」の歌や振付の練習に励みました。朝と夕方の2回を練習時間としていましたが、入浴時間や余暇の時間にも「入所!!」などと大きな声で歌って個人練習に励む方もおられました。本番では恥ずかしそうにしながらも笑顔で発表できました。

(生活支援員 玉田 淳也)



入所部はおそろいの法被をきてボンボンをもってステージ発表にのぞみました

遊歩道では

遊歩道をサクサク気持ちよく歩くと、広場に入所部の人々が描かれた描画が展示されていました。

段ボールを使ったりとか、その展示の仕方が、まるで山の中の美術館。作品にも太陽のスポットライトがあたっているようでした。「すごい」。いつもとはまたちよつと違う感動があった「友和の里まつり」の遊歩道でした。

(中村 満)



天候にめぐまれた作品展示

遊歩道広場では41点の作品を展示することができました。

友和の里まつりに感謝

11月10日恒例の「友和の里まつり」に初めて参加させていただきました。あいにく2、3日前から天候が気がかりでしたが、当日は曇一つない秋晴れの下で開催となりました。河野理事長が「祭りの開催を何よりも利用者が心待ちにしていたこと、それに向けてひたすら準備に余念がなかったこと、そして友和の里が今後も地域に支えられ、地域とともにあり続けたい。」との力強くオープニングトークをなされ、さらに国会議員から地元選出の議員、行政関係者皆様の月並みでないご挨拶を聞いて、「友和の里まつり」が皆の祭りであることを実感しました。

程なくステージでは友和の里利用者、ゲストによるアトラクションが続き、飲食を口にしなが、日ごろ鍛えられた芸自慢に酔いしれました。合間を縫って、施設の背後にある散策ルートに足を運びました。歩道に敷き詰められた木片チップが心地良く、サクサクと言う落ち葉の音も相まって、癒される思いがしました。長年施設関係皆様が精魂こめてつくられた、この散策道や野菜づくりは、友和の里だけでなく、

日ごろ悩みを抱えている一般社会人がリフレッシュ休暇などの目的で一定期間滞在できるサービスに繋がるとよいのではないかと……と思いつながら二往復してしまいました。

イベントの効果はゲストの満足感もさることながら、主催者側組織のコミュニケーション能力や達成感の向上にあると言いますが「友和の里まつり」に参加し、改めて河野理事長様をはじめ、企画準備なされた皆様、がたの祭りに掛ける思いの強さが隅々に伺われる素晴らしい祭りに参加させていただき、感謝しております。(佐伯 博章)



栗栖神楽団による『八岐大蛇』

大好評！焼き芋がかりより

今年担当になった岡田です。職員が焼き芋を作り始めて2回目です。焼き芋機の使い方に少々手こずりしました。説明書の取り寄せから始まった昨年度の工夫を引継ぎ、より美味しい焼き芋をめざしました。昨年よりも販売数を増やそうと考えて、厨房のオーブンと蒸し器も使用して、合計約300個の美味しい焼き芋をみなさんに買っていただきました。

(生活支援員 岡田 泰祐)



畑でとれたサツマイモで作りました。おいしかった～

開所日ワクワク通信



10月26日(土)の開所日に、「ディスクゴルフ」「クロリティー」「ラダーゲッター」を皆さんに体験して頂きました。「ラダーゲッター」は両端にゴムがついている紐を投げて横棒に引っ掛けて点数を競う競技です。「クロリティー」は、ゴム製の輪っかを的に投げて合計点数を競う競技です。「ディスクゴルフ」は、皆さんもよく知っている「フライングディスク」をゴールにめがけて投げる競技です。初めは興味なさそうでも、やっていくうちに楽しくなったのか最後には積極的に取り組んでいました。午後は皆さんジュースを購入してお菓子タイムとなりました。

(生活支援員 井場 孝行)

貝通し班

貝通し班は、十一月もコツコツと採苗器作りをしました。皆さんそれぞれのパースで、安定して作業されています。



今月は小関さんをご紹介します。小関さんは歌がとてもお上手で、先月開催された友和の里まつりでは素敵な歌声を披露してくださいました。性格も気さくで演歌や競艇、競輪のお話をよく聞かせてくださいます。そんな穏やかな小関さんと、これからもおしゃべりしながら楽しく過ごしていけたらと思います。

(生活支援員 冠 茜)

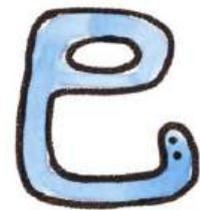
陶芸班

10月26日ハーモニーフェスタへ千支の販売に行ってきました。午前と午後に分かれ、少しの時間でしたが利用者さんと売り場へ立って呼び込みもしました。



友和の里まつりでの千支のご購入ありがとうございました。来月には地域への千支の訪問販売へ行く予定にしておりますので、現在千支の制作も頑張っております。

(生活支援員 堂面 なみ)



創作班

今回紹介するのは7月から創作班で作業している申ノアさんです。最初はウエスを畳む作業でしたが今は系取り作業をお願いしています。申さんのウエスの畳み方とはかく手早いため端と端が合いません。作業中はときどき太ももを手で叩いて音



を鳴らしたり、両手を合わせてパッと音を確認してから次へむかうなど独特のルールがある申さんです。利用者さんの様子に合わせて随時作業内容を変更しています。ウエスを割いた後に出る系の系取りを自主的に申さんがしていたので、それならと系取り作業に変わってもらいました。作業中に大事にしているのは申さん本人の

終わった感です。こちらの判断で終わりを決めないように気をつけています。次のウエスを隣においておき、そちらの系を取り始めたなら、前のウエスを回収するようにしています。

(生活支援員 寄尾 博孝)

療育班

体力の維持を兼ねた運動はウォーキングなどを普段行っていますが、この度は踏み台昇降運動を行いました。この踏み台を昇り降りすることで足を鍛えることができ、更にウォーキングを一回したことと同じくらいの効果を得ることができると言われていきます。通所バスでの乗り降りがスムーズにできるよう、こういった機器も使いながら支援しています。

(生活支援員 濱田 吉弘)



ゆめ森・はな森・めく森 News R6 秋 (No.16)

過ごしやすい季節がやってまいりました。今回は友和の里に訪れた秋の風景と、元気いっぱい遊歩道を散歩される利用者さんの笑顔をお届けいたします。(右写真→)

11/10の友和まつりが近づいた晴天の日に利用者みなさんと遊歩道にパンジーの花を植えました。新しい花壇です。端材で土止めを兼ねた縁取りをして友和の里でつくった堆肥をいれました。東の玄関口にもなる歩道なので、花があると明るくなって河野理事長にも喜んでいただきました。みなさん『コノハナハ、ナンノハナ?』『キレイ』と話しながら楽しそうに植えられました。

(生活支援員 高橋 正雄)



パンジーの間は遊歩道に敷いているウッドチップでマルチしました

嘔吐物処理研修

朝晩の冷え込みが厳しい季節になってきました。寒くなり活発になるのはウイルス達です。今月はノロウイルスの嘔吐物処理研修を行いました。集団感染防止の為、『病原体を持ち込まない』『病原体を持ち出さない』『病原体を拡げない』を念頭に置いて演習も行いました。手洗い、手指消毒をしっかりと行う事の他にも施設内の環境の清潔を保つことも重要です。これからも居心地のよい、生活環境作りを心がけていきたいと思ひます。

(生活支援員 佐藤 圭子)

廿日市市社会福祉協議会主催

令和6年度福祉施設職員相互研修



友和の里 → 児童養護施設
丸石子どもの家

研修に参加した職員の報告書の一部をご紹介します。

◆研修後、活かしていきたいこと◆

支援員が児童一人ひとりの意見を聞いているのを見て、子どもに限らず、どのような環境においても一人ひとりと向き合うことが大切だと思ひました。今回の研修で学んだことを活かし、自分の施設でも利用者さんに寄り添った支援ができるよう心がけていこうと思ひました。

(生活支援員 佐藤 圭子)

あきまつり

Yuuwa tayori 5

10月20日(日)に岩組地区の秋祭りが行われました。今年も岩組若者会の皆さんのお神輿が来てくれました。お神輿の掛け声が聞こえると皆さんのテンションも上がってきます。近くで見させて頂き、記念撮影。五穀豊穡を祈りました。

(主任生活支援員 吉村 愛)



おおきなおうだんまく

先日の友和の里まつりで、入所棟2階に掲げた『ようこそ!友和の里へ皆さん楽しんで下さい』という横断幕に気付いて頂けましたか?

こちらの文字は職員が手を添えて、グループホームゆうわとフレンドホームゆうわの皆さんが1人一字を書いて完成しました。職員が添えた手を離しても、大きな筆をじっと持ったまま皆さんカメラ視線を下さいました。

(主任 川久保 貴子)



フレンドホームゆうわ^{しんぼくかい}親睦会

11/18(月)にフレンドホームゆうわの親睦会をマリホ水族館とバツケンモーツァルト廿日市工場で行いました。12/1をもって閉館するマリホ水族館にすべり込みセーフで入館する事ができました。入居者やご家族には、水族館の生き物に癒され、カフェで海や庭園の美しい景色を望みながらの軽食(ケーキ、コーヒー等)を楽しんで頂き、ゆったりとリラックスできる時間を味わっていただくことができたと思います。

親睦会后、入居者の皆様より「水族館すごかった!綺麗だった」「また行きたい。次は宮島水族館行く?」「ケーキ美味しかった」とかなりの好評だった様子で次回を楽しみにされています。

次回もワクワクが広がる企画を考え、職員も楽しみながら皆様の生活がより充実するよう支援していきたいと思います。

(生活支援員 山田 憲志)



広原山だより その9



先日までの残暑が夢だったかのように、急ぎ足で季節がすすみ、友和の里の周りもすっかり初冬の景色となりました。駐車場や庭は、枯葉たちの格好の遊び場に。風に吹かれてカラコロと、枯れ葉たちは南に西に集団移動を繰り返しています。そこは、つい先日、これまでにないほどの盛況を見せた「友和の里まつり」の会場。実に多くの人たちが集まり、祭りを盛り上げてもらったのでした。

テーマは“笑顔 広がる 友和の里まつり”。出店もステージも大盛況で、まさにそこにはたくさんの笑顔が広がっていました。出店いただいたのは 広島ひかり園、夢工房、あおぞら、きらほし、劇団あじさい、友和女性会、みかんの会、リフレッシュクラブの皆さん。

一方、イベントステージには 友和の里利用者、万勝太鼓、友和保育園、Mele Tiare(フラダンス) KEN-G(けん玉) Peace Clover(ダンス) 栗栖神楽団など、70人を超す地元からの出演者が切れ目なく登壇し、それぞれのパフォーマンスを披露してくださいました。出店もステージも地域の皆さんが総出で祭りを形作ってくださっているなあと強く感じた充実の一日でした。改めまして、全ての方々に心からの「ありがとう」をお届けします。そして引き続き、友和の里をよろしく願いいたします。

話題は変わりますが、まつりの翌週の11月17日「第49回 広島県知的障害者福祉大会 廿日市・大竹大会 第22回 はつらつ大会(本人大会) 廿日市・大竹大会」が、廿日市市文化ホールウッドワンさくらびあにて開催され、理事長と共に参加してまいりました。メインテーマは「つながろう ひろげよう 手と手をつなぐ“絆”の輪を!!」でした。シンポジウムでは、災害時に「助けて」と言える関係性が重要と、障がい児のお母さん、地域リーダー、行政の方が登壇され、それぞれの立場からの思いを語られました。

障害児のお母さんからの「安心して親が死んでいける社会づくりが目標です」との思いに触れ、本来、福祉の原点は人と人をつなぐ“絆”だと言う言葉を改めて噛み締めました。一瞬にして筆舌尽くし難い困難な状況に追い込まれた今年正月の「能登半島地震」の災害地においても、悲惨な状況にありながらも、誰かが気にかけてくれる、身近な人と繋がっていると感じるだけで安心感や元気が湧いてきた。と言う話を耳にしました。絆は1日にしてならず! 当たり前のことですが、小さな日々の関わりを積み上げてこそ、絆は深まります。また、気にかけてもらえることに感謝しつつ、自らもこんな手伝いをして欲しいと言う思いを伝える、発信力を高めていくことも大切だなあと。それぞれの思いを繋ぎながら、絆を深めることの延長には、「親亡き後の安心な社会」がきっと見えてくるにちがいない! こんな思いを強くした、この秋の二つのビックイベントでした。 (常務理事 下川 真稔)

ご寄付の紹介 (10/10-11/10)



北村敬子さま
 専念寺仏教婦人会さま
 宮島ロライオンズクラブさま
 岡田國夫さま
 友和の里入所部保護者会さま
 株式会社地域総合設計さま
 神鳥正貴さま

たくさんのご寄付を賜り厚く御礼申し上げます

12月行事予定

Yuuwa tayori

12/4(水) ひがえり旅行(入所)

12/9(月) 理事会

12/10(火) お楽しみ会(入所)

12/13(金) 夕食会(GH/FH)

12/14(土) 施設内研修(虐待防止)

12/16(月) 友和病院定期通院/内科(GH/FH)

12/17(火) 評議員会

12/17(火) 友和病院定期通院/精神科(GH/FH)

12/17(火) 感染症対策研修(GH/FH)

12/19(木) 冬まつり(GH/FH)

12/21(土) 開所日(通所)

12/25(水) 夕食会(入所)

12/27(金) 大掃除(入所・通所)

12/30(月) 冬季休所(通所)

12/31(火) 冬季休所(通所)

※新年は1/6(月)から通所は開所します



作画 中田 勝一

新しい職員



作業支援員 山下 健一さん

山下健一(61歳)さん 入所部に新しく入職されました。山下さんのキャリアや人生はちょっと想像が付きません。かつてヨットで太平洋一周を航海した山下さん、今は山小屋に暮らしているそう。長い間大自然を目の当たりにする冒険を続けて現在は電気なし生活を実践、必要な電源は太陽光で確保している。今の趣味は武道で空道(大道塾)という総合格闘技だそうです。いろんな引き出しを持っている山下さん、話をきいてますます興味深くなりました。キノコにも詳しいということで、友和の里の山にはえるキノコも判別してもらいたいと早速に思いました。

